

早雲だより

2019.12.12

第148号

歴史グループ早雲

代表 井上一夫

第一六三回 歴史ハイキング 報告

柳生街道「滝坂の道」と春日山遊歩道散策

令和元年一月二四日(日)

近鉄奈良駅に33名が集合しました。行楽客で混雑するなか午前10時20分頃出発しました。

本日は江戸時代に柳生の里を目指した剣術修行者が歩いた柳生街道の「滝坂の道」と「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録されている春日山原始林を歩きます。

柳生街道「滝坂の道」

近鉄奈良駅から東へ進み春日大社への鳥居から南へ新薬師寺方面に進みます。そして空也上人旧跡で再び東に進みますが、ここから少し歩き民家がなくなった辺りから柳生街道「滝坂の道」です。我々は滝坂の道を首切の地蔵まで進みます。

柳生街道は江戸幕府の代将軍家の武芸指南役として仕えた柳生氏の領地の柳生の里に通じる道で、NHK大河ドラマ「春の坂道」で一躍有名になりました。

柳生氏は平安時代には春日大社の荘園の荘官として柳生の里一帯を支配していました。

昔の人は「柳生の里」から野菜などの産物を滝坂の道を超えて奈良まで売りさ

ばき、町で仕入れた品物を待つて帰ったとのこと。往復約20kmを朝出て昼頃には戻っていたとのこと。その健脚には驚きます。その生活の道を石畳に改修したのは江戸中期だといわれています。趣のある石畳の

道をあえきながら上りますと寝仏・夕日観音・朝日観音の石仏を見ながら首切の地蔵へ到着します。お昼時に到着したのでハイカーで賑わっていました。我々は少し上った貯水池の傍で昼食にしました。見ごろの紅葉を楽しめました。苦しかった登りもここまでです。



(写真)滝坂の道

寝仏

道はたのなげない石の裏側に、大日如来が横に刻まれています。ちかくの四方仏の一体が転がり落ちたといわれ、室町前期の作です。



(写真)寝仏

夕日観音

街道から少し入った山の急斜面に立ち、夕日をうけると神々しさがさらに増す石仏です。弥勒信仰がさかんだった鎌倉時代のもので



(写真)夕日観音

朝日観音

川向いに立つ摩崖仏です。東面して朝日にはえるのでこの名があり、まん中が弥勒、左右が地藏菩薩です。鎌倉中期の文永2年(1265)の銘が刻まれています。



(写真)朝日観音

首切り地藏

大木の根がタコ足状に地面にはい出た三差路にあります。刀を入れたような地藏の首は荒木又右衛門が試し斬りした、という伝説があり古くから街道の目印でした。



(写真)首切り地藏

春日山原始林遊歩道

昼食後、集合写真を撮り、井内講座で奈良ゆかりのクイズを楽しみました。

ここからは世界遺産の春日山原始林の遊歩道を進みます。杉の巨木や紅葉の高木に囲まれた広いなだらかな下り道を快調に進みました。



(写真)遊歩道

春日山原始林は、奈良市の市街の東方に位置する原始林で約250haの広さがあるそうです。春日大社の神域として古より狩猟や伐採が禁止され、積極的な保護により原始性を保ってきました。奈良の景観保全上においても重要な役割を果たしており、「ユネスコの世界文化遺産「古都奈良の文化財」の一要素となっています。

頭塔

遊歩道入口まで下り、そのまま西へ進み破石町バス停へ向かいます。本日最後の見学地「頭塔」は破石町バス停の前のホテルの奥にあります。ホテルの奥へ進み柵の外から見学しました。頭塔は盛土の表面を石で覆い、44体の石仏を配した日本では稀有の仏塔です。『東大寺要録』の記録では、奈良時代の僧、実忠によつて造営されたそうです。



(写真)頭塔

頭塔から奈良までのバス組と歩く組とに分かれて解散しました。

(文責 井上二夫)

アンケート報告

アンケート回答ありがとうございました。今後の活動の参考にさせていただきます。

問1) これからの例会場所・訪れてみたい所。

(回答)

・今まで行ったところでも良いと思います。

・滋賀県長浜市・近江八幡市・土山周辺。京都府亀岡・福知山・綾部等

問2) 会の運営について

(回答)

・いつも楽しく参加させておられますが、歩く距離が以前より長い様に思います。

・もう少し短め、そしてなるべく山より平野部に行きたい。

・本日は険しかったと思います。歩く距離が大体わかれば自分の足と相談できるのでありがたいです。

一口感想

H・T

お天気にも恵まれ、紅葉

も最高でした。この道は、40年位前に何度か歩いたところですが年には勝てません。ちょっとこたえましたが何とか歩けました。皆さんお世話になりました。ありがとうございます。今後もよろしく願います。

◇◇◇

K・M

日本の秋は何と美しいのでしょうー滝坂の道のゴツゴツした石の道を、息を切らして上った先の紅葉のなんと美しかったこと!!柳生街道はこつともなく長く、首切り地蔵の地点は、まだまだ入口の感じでとても、柳生一族、当時の武者の健脚ぶりに改めて感嘆する思いでした。個人ではとても行けない柳生街道を「

案内いただき有難うございました。

帰りは、春日山原始林を下る歩きやすい道でほとんど歩きながら、見上げるばかりの高木の紅葉をはじめ、巨木、照葉樹など古代から守られてきた原始林を素晴らしいと思いました。そして、二次会はいつも通りの楽しさ。生ビールに焼酎ロック、美味しい料理に疲れも吹き飛びました。

今後の候補地として長岡京、向日市あたりはいかがでしょうか?歴史もあると思います。歩いたことがありません。散策しながら色々教えて頂ければ嬉しいです。お世話くださった皆様、本当に有難うございました。

◇◇◇

H・M

錦秋の絶好のハイキング日和となり、集合場所の近鉄奈良駅までの車窓からの風景に

今日の柳生街道「滝坂の道」と春日山原始林散策の期待

が高まってきた。

街道までの道中、どこを見ても奈良って感じで、鹿の群れ、鹿にせんべいをやる人、まるで修学旅行気分。家並みが切れると遙か昔にタイムスリップ柳生街道「滝坂の道」不揃いの石を敷き詰めた石畳みが続く、木々が高く聳え風なお暗くて、凜と澄んだ空気、大原女のような新炭を担いで行く里人や宮本武蔵や荒木又右衛門のような武者がふっと現れそんな雰囲気を感じさせる。

途中、寝仏、夕陽観音、朝日観音(弥勒仏なのに観音とはこれいかに?)などユニークな石仏を鑑賞。

道中さほどハイカーに遭遇しなかったが昼食予定の首切り地蔵には座る場所もないほど人、人で溢れていたのにはビックリ。ハイキングコースとしての人気の

高さに認識を新たにした次第。

昼食後、春日山遊歩道のコースへ、春日大社の神山として信仰の場であったためほとんど人の手が入らず禁伐令により今なほ原始林として保たれている。

市街地に近接して原始林が存在することは非常に珍しいらしい。

最後に、奈良時代にインドの新様式を取り入れた最先端な「頭塔」。日本では希有の仏塔だぞうた。

11月末というのに、途中上衣を一枚脱ぐくらい快適で期待通りのハイキングとなり満足、満足。

◇◇◇

R・Y

今日も楽しい一日でした。石だたみの登りはちょっと苦手でした。でもみんなに助けられて何とか行けました。ありがとうございます。私はやっぱり街歩きが好きです。でも、山の空気、

原始林の空気も捨てがたいいいものです。いい景色、紅葉を楽しみました。ありがとうございます。

◆井内講座◆

奈良県クイズ

質問1

金魚の養殖で有名な大和郡山市では、「全国金魚すくい選手権大会」も開かれています。それでは、金魚をすくう道具の事を何というのでしょうか?

質問2

♪奈良の春日の青芝に腰をおろせば鹿のふん・ふんさて、誰が歌っているのでしょうか?

質問3

奈良にも有名なブランド牛がいます。
1 榛原(はいばら)牛
2 天理牛

3 宇陀牛

この中で間違っているのは、

質問4

奈良の山と言えば、万葉集にも詠われた大和三山が有名です。

1 天香具山(あめのかぐやま)

2 畝傍山(うねびやま)

そしてもう一つの山は何でしよう？漢字と読み方を書いてください。

質問5

東大寺法華堂(二月堂)にある執金剛神立像は、毎年

二月十六日に開扉され、

一般の方も拝観に行くことができます。さて、この執金剛神立像は仏教を守る神

のことで、金剛力士(仁王)はこの神将が発展して生まれたといわれています。

元々のインドでは、ヴァシユラパーヒと呼ばれ、造形的には半裸体で表現されま

すが、中国、日本では甲冑の武神として表されます。

それでは問題です。この執金剛神の起源は西洋のある英雄であると言われていますが、それは誰でしょう？

(解答は次のページ)

小説 六道

S・I

(終わりの無い不幸と終わらない幸せ)

(畜生道) 人の顔をした馬や牛、動物をいじめて落ちる畜

生道

猫

ある日、テレビを見ていたら、うちの若旦那が声を掛けて来た。

「鉄ーお前も、あのライオンの仲間なのだぞー!」と。

よくよくテレビに見入ると、タナガミのフサフサとしたりりしい雄ライオンが仲間を従えて行進している勇姿が映し出されていた。

ちなみに若旦那の旦那とは仏教用語から来ており、「与える」「贈る」の意であるが、一般には「面倒を見る人」「お金を出してくれる人」と云う風になったらしい。

うちの若旦那は俺の面倒を見てくれる人、というよりいつもやかいを掛ける迷惑な存在であるが、世間の事は俺よりも良く知っている。

小学校へ行っているが、学校の中でも上のクラスなのだ、と自慢しており、俺もそのことを尊敬していたが、最近、年を取れば(年々)自動的に昇級するのだと分かって、若旦那の発言が全て正しいとは思わなくなっ

それだからと云って、俺と若旦那の友情が崩れるわけでは無い。

その関係は兄弟以上だ。昨夜のメス猫はいやに色ぼかったな・・・
この所、まったく当りがいいぜ。

ある春の日の休日の朝、おだやかな日差しをあび、ニヤニヤしながら窓の外を見ていると、窓の裏下にある中庭で、若旦那が一人でせっせと何かを作っていた。

テント状の家は二本の縄で引っぱり、一本は俺が見ているすぐ目の前の木にくくり付けている。

本人は秘密基地とか言っているが、それは秘密でもなんでも無い。誰からもお見通しである。なぜならば、そこは見通しのきく中庭なのだから・・・。

ほんやりと目を上に移すと、これまたせっせと極彩色のくもが通るすがりの昆虫

虫を補足する為の悪魔のワナを作っていた。

まったく働き者はかりだ。それにくらべてこの俺は・・・。

緑さわやかな風のそよぎと暖かさの中にいて、不覚にもその場に寝てしまった。まあ、いつもの事だが。とれくらい時間がすぎたのだろう。
遠くからやさしい声が聞こえて来る。

「鉄ー鉄ーどこに居るのc。」

瞬時に俺は頭を持ち上げ、まっすぐ前を見つめ戦闘態勢に突入した。

階段を一目散に駆け下りると、そこは満漢全席の食卓である。しかし実際に置かれているのは皿の中に盛り上がったキャットフードであるが・・・。

俺は有難くそれをいただき、腹一杯になると感謝の伸びをして、そして又、2階へと上がっていった。そ

早雲【学習会】

して又、同じ様に窓フックに両手を置き、その両手の上に顔を寄せ窓の外を見た。

舞い上がった所にくもの糸というフナがあった。

を上げ、そして羽ばたき……自由の空をめざしていった。

突然一匹の黄色の蝶がどこからか飛んで来て俺の鼻に止まった。

張り上がったばかりの新品のフナはきっちり蝶を補足した。

俺は視界の片隅でそれを見とどけ満足したが、一方で俺の体は限りなく空中を落ちていった。

蝶の奴、俺がじっと動かないものだから石像が何かとまちがえたのだなあ……。

くもは早速、獲物の息を止めに駆け寄っていった。

そして不幸な事に若旦那が今朝方一生懸命張っていた縄の上に落ち、体が一回転し、それにつれて縄も一回転し、そして縄は俺の首に巻きついた。

風下がりのやわらかい日差しは俺の心に安寧をもたらした。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

ふと蝶と目が合った。

ライオンの勇氣、チーターの俊敏さ、虎の雄々しさを兼ねそなえているはずだ。俺の血の中には脈々と祖先のDNAが引きつがれているはずだ。

「母さん、鉄がたいへんだー」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

「どこかで合ったようだな……」

「俺の鉄が、首をつつている……」

なんせ蝶は俺の目と鼻の先に居るのだから……。

今は躊躇している時ではない。

「熊野親心十界曼荼羅」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

ふと蝶と目が合った。

ライオンの勇氣、チーターの俊敏さ、虎の雄々しさを兼ねそなえているはずだ。俺の血の中には脈々と祖先のDNAが引きつがれているはずだ。

「母さん、鉄がたいへんだー」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

なんせ蝶は俺の目と鼻の先に居るのだから……。

今は躊躇している時ではない。

「熊野親心十界曼荼羅」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

ふと蝶と目が合った。

ライオンの勇氣、チーターの俊敏さ、虎の雄々しさを兼ねそなえているはずだ。俺の血の中には脈々と祖先のDNAが引きつがれているはずだ。

「母さん、鉄がたいへんだー」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

なんせ蝶は俺の目と鼻の先に居るのだから……。

今は躊躇している時ではない。

「熊野親心十界曼荼羅」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

ふと蝶と目が合った。

ライオンの勇氣、チーターの俊敏さ、虎の雄々しさを兼ねそなえているはずだ。俺の血の中には脈々と祖先のDNAが引きつがれているはずだ。

「母さん、鉄がたいへんだー」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

なんせ蝶は俺の目と鼻の先に居るのだから……。

今は躊躇している時ではない。

「熊野親心十界曼荼羅」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

ふと蝶と目が合った。

ライオンの勇氣、チーターの俊敏さ、虎の雄々しさを兼ねそなえているはずだ。俺の血の中には脈々と祖先のDNAが引きつがれているはずだ。

「母さん、鉄がたいへんだー」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

なんせ蝶は俺の目と鼻の先に居るのだから……。

今は躊躇している時ではない。

「熊野親心十界曼荼羅」

蝶の複眼と俺の目が合うのは科学的には非常にむづかしい事ではあるが、兎に角 目が合ったのだ。

俺は渾身の力を足に込め、空中に向かってジャンプした。

俺は奈落へと永沈（ヨウチン）し、遠のいていく意識の中で目の前を優雅に泳いでゆく蝶の姿を再び見た

会場

ラポール京都 4階

第2会議室

住所

京都市中京区

壬生仙念町300の2

定員20名（申込順）

申込み 井上一夫まで

連絡先

歴史ハイキングと同じ

参加費

500円（会場費・資料）

交通機関

京都市バス 四条御前通

（東行きバス停前）

（公共交通機関をご利用

ください。全館禁煙です）

◆井内講座◆解答

① ぼん

② 吉永小百合

③ 天理牛

④ 耳成山（みみなし

やま）

⑤ ヘラクレス

講師 井内繁俊氏
（早雲スタッフ）

日時

2020年2月9日（日）

午後2時00分から

4時30分まで

開場

午後1時30分から